

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 2928 号	氏名	河野 達樹
論文審査担当者	主査 関沢 明彦 教授 副査 大塚 成人 教授 副査 沢田 晃暢 准教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>乳房固定術や乳房縮小術を施行する際の術前計画で最も重要な点は、新しい乳房の位置である。しかしながら年齢に応じた適切な固定位置についての指標は確立されていない。今回、3D 計測により得られた乳房の“年齢別平均値”から乳房再建の際の年齢別の至適移動量について検討した。</p> <p>2014 年 4 月から 2015 年 4 月までに当院外来を受診した乳癌術前患者 110 症例を対象に 3D スキャナーで撮影を行い、計測値を算出した。得られた計測値を年齢別にグループ化し、各計測項目の平均値を算出した。また全年齢の乳房を健側と患側に分け各計測値の平均値を算出した。各平均値に対して統計学的分析を行った。</p> <p>年齢別の計測値を比べると、データ上では 30 代から 50 代までのグループの各平均値には規則性がなく、有意な差を認めなかった。しかし 60 代のグループをみると 30 代から 50 代のグループに比べ各平均値が有意に増加していた。健側と患側ではすべての各平均値において有意差を認めなかった。</p> <p>今回算出した年齢別の日本人の平均乳房形状は、年齢相応の乳房再建の一定の指標になると考えられ、今後の乳癌手術後の再建術の進歩につながるものであり、学術的に価値があり、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名 : Natural Mastopexy Repositioning Based on Age-Related Mean Breast Shape (年代別平均乳房形状を用いた乳房固定術の至適移動量に対する検討)</p> <p>掲載雑誌名 : Asian Journal of Surgery 掲載予定 (2017 Feb 8. pii: S1015-9584(16)30386-4. doi: 10.1016/j.asjsur.2016.12.005)</p>			

(主査が記載、500 字以内)